

―習志野市基本構想（素案）の概要―

【長期計画の策定にあたって】

I 習志野市長期計画の概要
1 長期計画策定の趣旨 世代別人口の多数を占めている概ね 1970 年代生まれの、いわゆる団塊ジュニア世代が 65 歳以上となり、少子化も相まって生産年齢人口が減少する 2040 年問題の到来を見据え、市政が将来にわたって健全を保ちながら持続するために必要な「目指すべきまちの姿(将来都市像)」やその実現に向けた施策の方針を明らかにする。
2 長期計画の構成と期間 (1)基本構想 令和 8(2026)～令和 23(2041)年度の 16 年間 (2)基本計画 8 年ごとに策定(1期当たり 8 年間) (3)実施計画 4 年ごとに策定(1期当たり 4 年間)

II 本市の概況(強み◎・弱み△)
<位置及び地勢> ◎JR 津田沼駅から東京駅まで 28 分、東西線の乗り入れや成田空港へも乗り換えなし、京葉道路、東関東道が走る広域的な交通アクセスの面で極めて優れた立地条件 ◎谷津干潟や谷津バラ園、習志野緑地等の特徴的な緑の拠点を形成
<人口の概況と将来推計> ◎人口は、平成 17(2004)年～令和 6(2024)年まで一貫して対前期比プラスで推移 ◎平成 25(2013)年以降、自然増減数(出生数と死亡数)は令和元(2019)年を境にマイナスに転じているが、社会増減数(転入数と転出数の差)は市外からの転入を背景にプラスとなっている年次が多い △今後、地域経済社会を支える中心的な世代である生産年齢人口が占める割合が減少する一方、高齢化率が上昇する見込み
<産業> ◎JR、京成、新京成線の各駅周辺は商業集積地として、地域密着型の商店街が立地 △近隣への大規模商業施設の進出等により、顧客の獲得を巡り厳しい競争に直面
<都市空間> ◎良質な文教住宅都市として、居住や商業・医療・福祉等の都市機能が比較的集積するとともに、市内各地域の2km 圏内に駅が存在するコンパクトで生活利便性の高い都市空間を形成

III 今後のまちづくりに対する市民の想い(代表的な意見)
◇どんな世代にとっても快適で暮らしやすいまち ◇大人も子どももみんなが協力し合える素晴らしいまち ◇これからの若い人たちが子どもを育てたいと思えるまち ◇自然と共生するまち ◇災害が起こったときにしっかりと対応できるまち
IV 社会情勢の変化と今後のまちづくりの課題
➡1 人口構造の変化への対応 ➢我が国全体で団塊ジュニア世代が 65 歳以上の高齢者となる 2040(令和 22)年には、生産年齢人口の減少による働き手の不足や社会保障関係費の増大が深刻化することが懸念 ➢将来的な人口構造の変化によるマイナスの影響を最小限に食い止められるよう、こども・子育て家庭へのより一層の支援の充実を図るとともに、誰もがいつまでも心身ともに健康で暮らし続けられるまちづくりを推進することが必要
➡2 コンパクトで利便性の高い都市空間の維持・形成 ➢今後の人口減少・少子超高齢社会の進展により、地域住民の生活を支える都市機能の低下をはじめ、様々な面で地域社会が抱える課題が拡大、深刻化することが懸念 ➢居住の場・働く場・憩いの場など、多様な都市機能を兼ね備えた文教住宅都市として、より多くの人たちから「住み続けたい」、「住んでみたい」、「訪れてみたい」と思われる良質な市街地の維持・形成に努めることが必要
➡3 いつまでも安全・安心で自分らしく暮らせるまちの充実 ➢今後さらに、気象災害のリスクが高まることが予想されるとともに、市民の平穏な暮らしを脅かす犯罪等の発生リスクもより一層高まっていくことが懸念 ➢インフラ整備等のハード面、自助・共助・公助の適切な組み合わせによるソフト面の両面から防災、防犯及び交通安全対策の充実を図ること必要。また、これまでの大量生産・大量消費・大量廃棄の社会システムを見直し、環境負荷が少ない持続可能なものに変えて行くことが必要
➡4 地域経済の活力の維持・増進 ➢今後、あらゆる産業で人手不足がより一層進むとともに、経営者の高齢化が進む中で、中小企業の事業承継が社会的な課題として深刻さを増す見込み ➢新しい産業の創造・育成や最先端のテクノロジーを活用するなど、市の産業競争力を高めるとともに、時代の変化に即した商業振興及び中小企業・小規模事業者のニーズに応じた伴走型の経営支援等に努めることが必要
➡5 生涯にわたって人とつながり、いきいきと暮らせる社会の充実 ➢現在、全国的に人と人との交流・つながりや地域の中でお互いに助け合い・支え合う基盤が弱まり、地域が抱える課題の多様化・個別化が進行するとともに、性別、年齢、国籍等の違いを背景に、人権に関する様々な課題が顕在化 ➢あらゆる「違い」を認め合い、お互いの人権を尊重して、多様な人々の能力や考え方を受け入れ、積極的に活かしていく「多様性(ダイバーシティ)」の理念に対する理解浸透に努めることが必要
➡6 持続可能なまちづくりを支える自治体経営の推進 ➢行政の経営資源をより無駄なく最適配分するための取組みを強化するとともに、最先端のデジタル技術や民間活力等を活用した行政サービスの提供を推進することが必要

【基本構想】

I 将来都市像
◆これまでも市民一人ひとりが夢と輝きをもって自己実現を果たし、あらゆる主体を互いに認め、理解し合いながら、みんながやさしさでつながり続けてきました。 今後も常に未来を見据え、これまで以上に幅広い立場や主体がともに考え、手を携え、認め合い、尊重し合い、『多彩で』『豊かな』活動を行い、永続的に「交流」し、いきいきと暮らし、「広く」活躍できる仕組を構築し、まち全体を発展させていきます。 【みんなで目指す習志野市の将来都市像】 多彩で豊かな交流が広がるまち 習志野

II まちづくりの基本的な考え方
◆「多彩で豊かな交流」を培います 人やモノが、世代や分野を超えてつながり、幾度も交流することで、市民一人ひとりの暮らしと生きがい理解し合い、平和への願いとともに、地域をみんなで創っていく地域共生社会・多文化共生社会を推進します。 ◆「交流が広がるまち」を育みます 夢や希望に向かって、やりたいことをアクティブに行動できるまちづくりに取り組み、本市に係るすべての人が、躍動し、進化し、発展できるグランドステージになることをめざします。

III 都市空間形成の基本的な考え方
◆コンパクトな生活圏の維持と形成 ◆中心市街地の求心力向上 ◆新習志野駅勢圏の活性化 ◆自然景観を活用した魅力の創出

IV 将来都市像を実現するための3つのピース
◆安全 いつまでも住み続けたい「まち」 ◆安心 育み学び健康で笑顔輝く「ひと」 ◆快適 すべての人が協和し充実する「活動」

V 市政経営の基本方針～あらゆる循環を想定した持続可能な行財政運営～
◆多様な主体との連携 ◆徹底的なデジタル化 ◆経済効果の追求

